

問題点

停電・断水

対応策

<電子薬歴>

- ・薬歴は紙で、水が浸入しない薬歴棚に予め保管しておく。
- ・患者にお薬手帳の携帯を普段から促すことも大切で、写メなどの携帯電話を使用することも考える。
- ・印刷した「薬歴チェックシート」を保管。紙薬歴もとっておく。
- ・毎日のバックアップを怠らない。

<被災した患者さんの服用している薬が分からない>

- ・陰証と一緒に「お薬手帳」も入れておくように、また良く利用するバッグに「薬情」をいれておくように指導する。
- ・医師、薬剤師が患者にインタビューして、医師に処方してもらう。

<レセコン>

- ・毎日のバックアップを怠らない。
- ・バックアップDVDを安全な場所へ持ち出す。
- ・手計算が出来るように勉強しておく。
- ・とりあえず薬のみ渡し、連絡先もふくめ処方内容を記録し、後日会計。
- ・負担金を徴収することが困難な時は、調剤や薬品提供の記録を残しておく。

<電力確保>

- ・発電機やハイブリッドカーや電気自動車などから電気を供給して対応する。
- ・自家発電手段の確保(ソーラー発電の導入、ハイブリッド車等から電気をひく、発電機(手巻き式発電機やエネポ等)を購入
- ・携帯電話など使える通信手段で状況報告と復旧依頼する。
- ・関連書籍や、薬局内での在庫薬一覧を紙媒体で準備しておく。

<冷蔵庫>

- ・保冷品のために、クーラーボックスと冷凍庫に保冷剤をストックしておく。(冷蔵庫代わりに。1日程度は保冷可能)

<分包機>

- ・調剤に関しては電池式秤、ユニパック、薬包紙を準備しておく。
- ・一包化はとりあえず2日分をユニチャックで渡す。
- ・手分包の練習
- ・電気を必要としない調剤方法の確立。

<断水>

- ・水道が使えないことに備え、ウォーターサーバー機を準備(停電時には保冷はできないが給水は可能)。
- ・ミネラルウォーターを備えておく(実際は20mlのポリカン3~4本)などして対応する。
- ・手動ポンプの井戸水をわけてもらう。
- ・ペットボトル水を薬局で販売(品質期限が常に更新できる)
- ・使い捨てのビニール手袋を常備(手洗いができない場合に備えて)
- ・水洗トイレは半端無く水がいる。

D

災害時における各薬局の対応

問題点

通信麻痺

対応策

<通信手段>

- ・メールの方が繋がりがやすいので利用する(メールアドレスをたくさん把握しておく)。
- ・NTTの災害時伝言ダイヤルなどを利用する。
- ・携帯電話を常に携帯する(充電器も携帯)
- ・災害時の緊急連絡先や体制を事前に良く聞いておく。

<被災した薬局スタッフへの連絡>

- ・事前に避難場所を決めておき連絡が取れておくようにしておく。
- ・災害時の連絡方法をあらかじめ話し合っておく。

<在宅、独居の患者さんの所在>

- ・患者の予定避難先を聞いておく

<ネット・電話が使用不可>

- ・手巻き発電式のラジオを入手しておく。

D

災害時における各薬局の対応

問題点

職能

対応策

<学校薬剤師>

・日頃から校長先生や養護の先生とコミュニケーションを取り、災害時のことを話し合っておく。

<患者>

・日頃から、近隣の震災弱者(独居の高齢者など)を把握しておく(発災後ケア)

・避難ルートを把握しておく(発災時の患者誘導)

・患者さんのメールアドレスまで確認しておく(発災後ケア)

<感染症の発生予防>

・消毒薬の知識を得ておく

・薬局に消毒薬を揃えておく

<代替調剤薬>

・服薬指導に力をいれる

・患者さんからの(相談を積極的に)受ける

・OTC、他科薬剤を含めた知識の向上

・他の薬局と協力

・お薬手帳の推進

・電子媒体(携帯電話を含め)による記録

D

災害時における各薬局の対応

問題点

物流麻痺

対応策

<医薬品>

- ・県薬剤師会あるいは地区薬剤師会を通して、災害時の対応を薬品卸に確認しておく。
- ・薬剤師会からの薬剤の流通情報が欲しい。
- ・薬剤師会で備蓄はできないか。
- ・薬局の在庫情報を公開し、近隣薬局間で薬の譲渡しなどの協力体制を整え薬局間でやりとりする。
- ・備蓄の充実
- ・近隣薬局との連携を事前に深めておき、近隣薬局での代替調剤などを予め話し合っておく。
- ・代替品で対応する。
- ・代替薬(ジェネリック、OTC)の知識向上
- ・処方日数を2日分に短縮する。
- ・水害時(被災までの時間がある時)、薬品を安全な場所に移動する。
- ・買い占めをやめる。
- ・問屋さんと日頃から仲良くなっておく。

<薬袋、軟膏缶、瓶などの消耗品不足>

- ・手書き用薬袋を常備また代用できる物、可能な物で準備。
- ・青木和子先生宅の船で物資を運搬する。

<災害時の救急セット>

- ・怪我などに対する応急処置用の衛生材料を、医療提供施設として各薬局ともに備えておく必要あり。
- ・通常は販売用でもよいので、多めに在庫しておく。

D

災害時における各薬局の対応

問題点

人材不足

対応策

<薬剤師が出勤できない>(薬局への交通手段が難しい)

- ・近隣の営業可能な薬局を紹介する。
- ・近隣の薬局と助け合えるよう、連携をとっておく。
- ・薬局の近くに居住しているスタッフが対応する。
- ・閉店している薬局スタッフは、開いている近隣薬局を手伝いに行く。
- ・人的移動には、自転車を活用。

<医療機関の閉院>

- ・開いている医療機関に患者が集中:紹介先をリストアップしておく。

<災害後の過労>

- ・発災後は疲れを溜めないように、意識して休憩をとる。
- ・日頃から、遠方に、助けてくれる友人を作っておく。
- ・薬剤師会で人員調達できるようにする またブロック内で輪番制などをとる。
- ・一人で仕事ができる能力(事務方の分まで)をつけておく。

D

災害時における各薬局の対応

問題点

その他

対応策

市役所に確認するなどして、薬局所在地区の避難所を予め確認しておく→その情報を患者さんに提供。
在宅の患者の救助、薬物療法の確保：在宅患者の安否確認、避難誘導
薬品が水害等で汚れた場合の使用可能か不可能かの判断が難しいため、メーカーが耐性試験を行っている場合は試験情報が欲しい。
調剤室が使えない：仮設調剤室を検討し準備する。
患者が来局できない：Dr.の了解を得て、できる範囲で配達する。
不確実な情報の氾濫とその対応：解決策なし
電子機器の破損：落雷・水没などで、電源があっても使用不可：リース契約 日頃からデータのバックアップをとっておく
建物の損壊：ひび、割れ、水没、泥、倒壊：入口にシャッター設置
物は床に置かない(床から10～15cmあける)
棚の固定・薬瓶の落下防止対策(関東地区の対策を見習う)
患者の避難誘導場所を決めておく(スタッフに役割分担しておきスムーズに避難させる。
災害用リュック利用：電池、電卓、LED懐中電灯など)